

猛暑、お見舞い申し上げます。

上田 勉

被災3県 海開き本格化 海水浴場 復活足踏み

「東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島各県の海水浴場の復活が進まない。7月18日から海開きが本格化する今夏、新たな再開予定はない。防潮堤などの復旧工事が続いたり、砂浜消失が深刻だったりするため、それぞれの浜に夏のにぎわいが戻るのは、まだ時間がかかりそうだ。」

今夏の開設14か所 復旧工事も影響

「3県の市町村などによると、この夏に開設される海水浴場は、岩手7、宮城5、福島2の計14カ所。13年に再開した月浜（東松島市）は、堤防などの工事で安全確保が難しいと判断して、ことしは見送った。

長須賀（宮城県南三陸町）、鬼ヶ浜（塩釜市）は、自治体ではなくボランティアなどが運営する。このほか、石巻市北上町の白浜海水浴場がおととしと昨年に続き、2日間限定（8月8、9日）で海開きを行う。

震災前、海水浴場は3県に約70カ所あったが、多くで再会の目処が立たない。

約1.5kmの海岸線が続いた釜石市の根浜海岸は、津波や地盤沈下で83㎡の砂が失われた。市は自然再生で360年以上かかると試算。砂を盛るなどして部分的な復旧を検討するが多額の費用が必要で、岩手県や国に財政措置を求める考えだ。

気仙沼市は、宮城県内有数の集客を誇った大谷海水浴場など3カ所が利用できない。市は「緊急避難場所なども未整備。防潮堤などの工事が終わらないと再会は難しく、震災前のリピーターがほかに離れていかないだろうか」と懸念する。

小規模な海水浴場では、地元住民が高台移転して管理できなくなったケースもある。東京電力福島第1原発事故による避難指示区域は、住民が帰還すらできていない。」（「河北新報」15年7月26日付け）

「快水浴場」海開き 気仙沼・大島 小田の浜

「気仙沼市の離島・大島の小田の浜海水浴場が7月25日、海開きした。東日本大震災に伴う海岸復旧工事などの影響で、3年続けて市内唯一の開設となった。

観光関係者らが神事を行い、気仙沼大島観光協会の白幡昇一会長が「素晴らしい環境で海水浴を楽しんでほしい」とあいさつ。曇り空で蒸し暑く、訪れた子どもたちは浮輪で海に漂ったり、波打ち際で貝殻を拾ったりしていた。

岩手県金ヶ崎町から家族や友人と訪れた会社員Sさん（36）は「ここは海がきれい。皆で大島の民宿に泊まって復興にも貢献したい」と話した。

小田の浜は環境省が認定する「快水浴場百選」の中でも特に美しい12カ所の「特選」に選ばれている。去年は1万2,000人が訪れた。ことしの営業は8月23日まで。期間中は大島のフェリー乗り場と海水浴場を結ぶ路線バスが1日計6便運行される。」（「河北新報」15年7月26日付け）

【「快水浴場百選」の中の「特選」に選ばれている小田の浜海水浴場（気仙沼市大島）】



【駅から一番近かった大谷海水浴場 線路は復旧されなくなった JR 気仙沼線】

